

力作ぞろい、一丸となって感動を創る

〜2023年ながしま造形美術展〜



PTAの部 最優秀賞 鷹巣中学校PTA「ながしまーライオン」



一般の部 最優秀賞 塩追自治公民館「しゃちほこ」



学校・幼稚園の部 最優秀賞 伊唐小学校「伊唐の誇り ～伊唐大橋～」

会場を盛り上げた和太鼓集団「和楽」



テープカットで開場



10月14日、第19回ながしま造形美術展が太陽の里ピクニック広場で開幕しました。新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりの開催となりました。

同イベントは、2年に1回、町民が一丸となって取り組む大イベントで、昭和60年、旧東町が始まり、平成18年の町合併後も続けられ、今回で19回目の開催です。

町民自らがアーティストとなり、杉の葉やススキ、ヒオウギ貝など自然の素材や空き缶、ペットボトルなどの廃材を使った1歳・3歳・5歳超級の力作が会場を所狭しと並びました。

今回の造形美術展には、自治公民館や学校、PTA、各種団体などから計86体の作品が寄せられ、11月12日までの約1カ月間来場者を楽しませます。

14日の開会式では、オーブニングセレモニーにあわせて、和太鼓集団「和楽」による演奏が会場を盛り上げました。

式では、ながしま造形美術展実行委員会の上窪正志実行委員長が「各自治公民館や団体から大小さまざまな作品が並んだ。町長が常々言っている

「安らぎと癒し・花と石垣の町・福祉の充実した町づくり」これらが集約された造形展になっている。町民一丸となってさらに高みを目指して行きたい。制作に携わられた皆さんに感謝し、ご来場の皆さんには長島町で癒されていたことを祈願します」とあいさつしました。

セレモニー終了後は、鹿児島大学教授で彫刻家の池川直審査委員長をはじめ、4人の審査委員により、「一般の部」、「PTAの部」、「学校・幼稚園の部」の3部門に分けて審査を行いました。

この日は、制作に携わった集落の人たちやPTA関係者など多くの人が集まり、審査結果発表を心待ちにしていました。

池川審査委員長は「今日は審査員らと楽しく審査できた。40年近い歴史を持つ造形展は日本中でも珍しいのではないかとと思う。一つの作品を団体で作りに上げるのは非常に難しいが、本日の作品を審査していると各団体が楽しみながら制作したことが思い浮かばれる。このような取り組みが今後も続いて欲しい」と講評しました。